

畜産業におけるその他の環境等を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	11~12	育成牛舎において除糞作業を行い、作業終了後、牛を通行止めにしていただけをはずしてまとめていたとき、後方より牛が接近し、柵側に強く押されたため、鉄柵で胸を強打した。	73	1~9
1	7~8	地下道通路において、調教終了後の帰厩の際、護馬が突然走りだし、その近くにはいた他馬に左足首を蹴られ、同部を負傷した。	35	10~29
1	15~16	馬房内において、馬房内清掃中、該馬が突然暴れて追突し、左鎖骨部分を強打し負傷した。	40	1~9
1	14~15	牛削蹄作業中、牛を移動している際に牛が突然走り出し、つられて前に出ようとした際、柱と牛に挟まり鎖骨骨折となった。	24	—
1	7~8	牛の出荷作業中にロープを引っ張って移動させようとした際、嫌がった牛が右側から当たって来た為、反動で反対側の柵に衝突した。	55	10~29
1	14~15	農場内肉豚舎で、出荷する豚を豚舎から出そうと追い込みをしている時、座り込んで動かない豚の首付近を手で押して動かそうとしたところ、急に豚が手袋の上から噛みつき、左手中指爪先を切断した。	39	30~49
2	6~7	事業主経営牛舎内に於いて搾乳作業の為に牛を移動させていたところ、立てない牛がいたため、事業主を呼びに行こうとした際、足もとが凍っていたため、転倒し、右手首を骨折したものである。	26	1~9
				100

2	15~16	馬房内において仔馬の手入れ中に母馬が威嚇してきて左耳を?まれた。耳上部表面2cm、耳裏4cmの裂傷を負った。	19	~ 299
2	14~15	競馬場自厩舎洗い場で2才馬を洗い場にいれる際、同馬が足を滑らせ転倒し、立ち上がる時に同馬の右前足で左足を踏まれた。その後も痛みを我慢しながらも治ると思い仕事を続けていたが馬のレントゲン時に一緒に検査してもらったところ骨折していたので後日に受診した。	36	1~ 9
2	14~15	自厩舎洗い場で2才馬の手入れ中、同馬が暴れだし、鉄柱と馬体との間に挟まれ負傷した。病院へ通院したが、後日別の病院に転院し、骨折と診断されたのでその日から休業する。	40	1~ 9
2	15~16	放牧地にいる繁殖馬を収牧する為に、放牧地の中に入って行ったところ、後から走ってきた繁殖馬が横を通り過ぎた時に、急に左足で顔面を蹴られた。	62	10 ~ 29
2	20~21	弊社牛舎内ロータリーパーラーにおいて業務中、暴れる牛に装着するキックガードを取り付けるため、一度後ろのポールに立て掛けた際にそのキックガードを牛が後ろ蹴りにしたので被災者の顔面に当たり負傷した。	38	50 ~ 99
2	9~10	繁殖豚舎で豚の交配中、雄豚が雌豚から離れた時、右側頭部に当たった。	30	—
2	10~11	馬房内で馬にハミを付けようとしたところ馬が突然向きを変えて左背中部分を蹴られた。馬の左側からハミを付けようとしたところ、馬が時計回りに向きを変えた為危険を感じ、とっさによけたつもりだったが、一瞬の出来事だったのでよけきれず蹴られた。	65	10 ~ 29
2	6~7	厩舎付近、馬運動場において取扱馬の乗運動中、該馬が物音に暴れ上にジャンプした後、着地した時に馬の首の硬い部分に右手があたり小指を負傷した。	37	10 ~ 29
2	9~10	当牧場にて競走馬を騎乗して調教をしている際に、騎乗していた馬が物見をして木の影に馬が驚き急に止まった。その勢いで落馬し右半身から落ちたため大腿骨の骨折となった。	40	30 ~ 49
				10

2	9~10	Cコースにおいて取扱馬試教中、ゲートを出た後、該馬が突然跳ねた為バランスを崩し斜め前方へ落馬し、左肩部、頸部、左肘を負傷した。	39	~ 29
2	13~14	調教馬場で乗りかわって残り1周で馬が暴走し、手綱をはなさず鐙もめげず頭から落ちて引きずられた。	16	1~ 9
2	10~11	馬運動場において取扱馬の曳き運動中、該馬が目の前にいた物を物見して驚いた際に右胸部を蹴られ、同部を負傷した。	38	10 ~ 29
2	7~8	馬場Cコースにおいて取扱馬の騎乗調教中、該馬が突然斜行したため、落馬し柵に当たり、右腰背部を強打負傷した。	37	—
2	11~12	牧場内トラックコースにて、暴走している馬を止めようとした際、その馬に衝突された。	49	30 ~ 49
2	6~7	3号厩舎内の18馬房において、担当馬の馬糞を処理中に突然暴れだし、その時に左ひざを蹴られ負傷した。	67	1~ 9
2	10~11	自社農場内において、出産予定日の豚をストール舎から分娩舎へ移動作業中、豚が暴れ、豚のお尻で柵（高さ約80cm）に左手を押し付けられ負傷した。	39	1~ 9
3	8~9	屋内走路で育成馬の調教中、突然立ち上がり落馬し、左側肋骨骨折及び右肩負傷を負った。	52	30 ~ 49
3	9~10	被災者は当牧場にて、競走馬の育成・調教に従事している。牧場内で2歳牡馬を騎乗訓練している際に馬が突然立ち上がり、耐えきれず落馬し、着地の際に右足を強く打ち負傷した。	36	50 ~ 99
3	7~8	ウッドチップパドック前でウッドチップパドック内にある水桶に水を入れるため、水が入ったポリタンクを両手に持ちながら、少し小走りしていたところ、雪がうっすら積もった通路がアイスリンクのようになっていて転倒した。	52	50 ~ 99
3	8~9	自社農場で牛の出荷作業のため、牛をトラック荷台に載せる作業中、牛がトラック荷台から逃げようと向かってきたため体で阻止したところ、牛が頭で激突し突き飛	36	10 ~

		ばされ、トラック荷台反対側の壁の鉄部分に腹部を強打し負傷した。		29
3	6~7	厩舎内で工作中、急に指の爪と皮膚の間に痛みを感じ、しばらく様子を見ていたが化膿してきた。	55	1~ 9
3	6~7	角馬場において、取扱馬の騎乗調教中、該馬がつまずき人馬ともに転倒し、頸部を負傷した。	63	10 ~ 29
3	9~10	坂路コースにおいて取扱馬の騎乗調教中、該馬が興奮して暴れたため落馬し、左胸部（肋骨）を負傷した。	59	10 ~ 29
3	3~4	馬房内において取扱馬の運動準備中（装鞍中）、該馬に突然蹴られ、顔面を負傷した。	47	10 ~ 29
3	7~8	取扱馬の乗運動中、該馬が突然立ち上がり人馬ともに転倒し、右足踵部分を負傷した。	46	10 ~ 29
3	10~11	馬運動場において取扱馬の乗運動中、該馬が突然暴れた際に落馬し、腰部及び左脇腹を強打し負傷した。	39	10 ~ 29
3	9~10	取扱馬の曳き運動中に該馬が突然暴れ、右脇腹を蹴られ、同部を負傷した。	39	10 ~ 29
3	7~8	取扱馬の乗運動中、該馬が突然暴れて振り落とされ、左大腿部を負傷し、左第1指を該馬に踏まれ負傷した。	45	10 ~ 29
3	11~12	洗い場にて馬の肢を洗っていた際、馬に洗い場の壁へ押し付けられ、手を馬と壁の間に挟まれ負傷した。	23	—
				50

3	13~14	育成舎のふん掃除を行っていた際、若雄豚の豚房を掃除していたところ、じゃれてきた若雄豚の牙で右ふくらはぎ内側に幅5~6cmの切り傷を負った。	54	~ 99
4	11~ 12	馬の調教中、急に馬があばれて馬の首に右手首をぶつけて負傷右橈骨遠位端骨折をした。	33	1~ 9
4	7~8	騎乗調教を開始しようとして場内厩舎前で馬にまたがった際、馬が突然暴れ厩舎内に向かって走り出し、騎乗したままの状態できり止めようとした。その時に厩舎の天井の梁に頭部をぶつけ落馬した。	40	10 ~ 29
4	17~ 18	従業員が牧場にてヘルパー業務中、牛の搾乳作業をしており、搾乳が終わった牛と搾乳を始める牛の入れ替え中に、他の人が牛を驚かせてしまい、搾乳が終わった牛が急に動いてしまったので、牛に当たらないよう避難しようとしたが、牛と鉄の柵との間に右上腕部を挟まれて打撲した。	21	50 ~ 99
4	15~ 16	放牧地で収牧中、仔馬がゲートに突っ込み、外れたゲートに巻き込まれて倒れ、頬・左手首・後頭部を負傷した。	39	30 ~ 49
4	6~7	事業主牛舎にて子牛の熱を測っていたところ、他の牛が暴れて右手首を蹴られて受傷した。	57	10 ~ 29
4	16~ 17	馬洗場において取扱馬の手入作業中、該馬が突然立ち上がり、前脚が引き手に絡まった為、それを外そうとした際に該馬の下に巻き込まれ、後ろ脚で顔面・左胸部・頸部を踏まれ負傷した。	59	1~ 9
4	5~6	厩舎前において取扱馬の乗運動中、該馬が突然立ち上がり人馬とも転倒し、右腰部（右骨盤）と左足踵を負傷した。	29	10 ~ 29
4	11~ 12	ロータリーバーラーで2回目の搾乳が終わり、牛舎に返す際、牛に近寄ったところ、右太ももあたりを牛に蹴られた。	40	100 ~ 299
				50

4	7~8	牛舎にて仔牛にミルクをあげる作業中、小屋1マスに仔牛2頭が入っていたため、移動させようとしたところ、牛に足の甲を踏まれた。	46	~ 99
4	7~8	馬運動場において曳き運動中、該馬が突然走りだし、該馬に右腕に突進され、右肩部を捻った。	50	10 ~ 29
4	9~ 10	厩舎付近の馬運動場付近において、調教終了後の帰厩の際に該馬が突然立ちあがり落馬し、腰部及び頸部を強打した。	39	10 ~ 29
5	9~ 10	場内の種付所にて、種付を行うための準備中に繁殖牡馬の後肢の後ろに、マットを置いた際に繁殖牡馬が左後肢で蹴り頭部を蹴られた。繁殖牡馬の足にはクッション性の靴を履かせていた事と、本人もヘルメットを被っていた為、外傷はなかったが頸椎を損傷した。	62	1~ 9
5	13~ 14	調教場にて馬の調教中、馬上でバランスを崩し落馬した。地面に頭部を打ちつけ脳震盪の症状があらわれた。馬体に着用していた鞍がずれてしまったことが原因である。	27	300 ~ 499
5	8~9	自厩舎内、厩舎前において乗運動中、該馬が厩舎作業中の人に物見し立ち上がったため落馬し、着地した際に右足を衝撃により負傷した。	43	10 ~ 29
5	3~4	自厩舎内、馬房内において飼葉付作業中、該馬がくるっと廻って突然蹴ってきたため、胸部（肋骨骨折）を負傷した。	55	10 ~ 29
5	5~6	自厩舎内、馬洗場（厩舎）において、運動終了後に洗場に繋ごうとした際、該馬が物音に驚き突然前に走り出したため踏まれ、右足の小指を負傷した。	39	10 ~ 29
5	15~ 16	牛舎において牛の手術を行う際、牛を倒す為ロープを牛の近くで引っ張った時、牛が体勢を崩し、左足首の内側を踏まれ負傷する。	22	50 ~ 99

5	16~ 17	農場にてオス豚を移動させていたところ、豚舎の通路で豚が激しく転倒し、右足の太ももにぶつかってきて、豚の歯（キバ）で太ももを切った。	65	10 ~ 29
6	4~5	馬房内において、馬の手入れのため馬房に入って、左手に馬と繋がっている手綱を持ち、右手でブラシを持って馬の左側の首、背中、お尻へとブラシをかけている時、馬が何かに驚き、急にお尻を寄せて来て、逃げる間もなく、左肩が馬の左のお尻に、右肩が馬房の壁に挟まれた状態となり、肩と胸が圧迫されたため、鎖骨脱臼と右肺に外傷性の気胸を負った労災事故である。	61	1~ 9
6	6~7	親馬の後肢手入れ中、馬が少し嫌がる素振りを見せ、後肢を振り上げた。その際、馬の後肢蹄が太股内側に接触した。	21	50 ~ 99
6	19~ 20	場内装鞍所において、11レースに出走する馬に馬具を装着していたところ、思いがけず左前足で左足親指付近を踏まれ負傷した。	31	1~ 9
6	7~8	馬場において取扱用の騎乗調教中、該馬が突然逃避しながら斜行したため落馬し、左肘を負傷した。	32	10 ~ 29
6	6~7	馬場Eコースにおいて、ゲート練習中、該馬が嫌がって突然立ち上がり人馬転倒し、右膝を強打し負傷した。	34	10 ~ 29
7	16~17	馬房の中で、馬を捕まえようとした時に、馬が嫌がり暴れて右太もも当たりを蹴られて負傷した。	46	10 ~ 29
7	18~19	牛を別の牛舎へ移すため、間違わないように牛の後足の足首に目印のためのテープを巻く作業をしていた。先に右足首にテープを巻きおえて、次に左足首に巻こうとしてかがんだ時に、牛があばれて左肩を踏まれた。	40	10 ~ 29
7	11~12	交配豚舎内において、豚の交配作業中、雌に雄が乗ったので補助に入ろうとしたところ、雄が足を滑らせ雌から滑り降りたために、豚房柵と雄の間に左手が挟まれ骨	25	1~ 9

		折した。		
7	5~6	馬運動場において曳き運動中（左側）、該馬が突然走り出し引きずられ、左肩部を負傷した。	43	10 ~ 29
7	6~7	馬を洗うため、洗い場に馬を繋ごうとした際、馬が飛び出しそのまま引きずられ右肩にヒビが入った。	50	1~ 9
7	15~16	厩舎前において馬運車から降ろす際、該馬が物見し飛び降りその際左足第4・5指に着地され、同部を負傷した。負傷当日より痛さがあり我慢していたが翌日腫れが広がっているため、救護室にて診てもらい処置してもらい、骨折していると言われ湿布を貼って我慢した。	30	10 ~ 29
7	14~15	計量場から牛舎へ、牛をもくしで引っ張りながら移動していたところ、牛が興奮したためバランスを崩し転倒した。その際に、左体親指と小指を負傷した。	41	10 ~ 29
7	1~2	牛〔350kg〕をパドックからパドックへ移動するため、車に乗せようと後から追っていたとき、牛に蹴られ、右足脛を打撲した。休業見込み3週間	38	10 ~ 29
7	16~ 17	馬の治療中、馬が治療を嫌がり突然後ずさりをした。その際、手に持っていた引手綱が右手中指に絡み負傷した。	36	30 ~ 49
7	11~ 12	牧場の馬場において、被災者が馬の騎乗調教中、馬が何かに驚いて急に横跳びした為バランスを崩して落馬し、その際に地面に頭部を強打して負傷した。	60	1~ 9
7	10~ 11	牛舎内のパーラーで牛の検査作業中に、パーラーから勢いよく出てきた牛と柵の間に右腕を挟まれ骨折した。	21	10 ~ 29
7	8~9	牛舎内において発情牛の捕獲作業中、他の牛が騒ぎ出した影響で捕獲しようとしていた牛が走り出し、牛に装着していたベルトから手が外れず並走する形となった。その際横になっていた牛を飛び越えたが、その先にいた牛とぶつかった際、首をひ	46	1~ 9

		ねったもの。		
7	8~9	馬に騎乗中、前の馬が人馬転し、倒れてきた馬が左膝付近にぶつかった。	37	100 ~ 299
7	13~ 14	牧場内で和牛の人工授精をする為に、運動場から雌牛を枠内へ追い込む作業中に、首にロープをかけていた。牛の後方からそのロープを両手で掴み保定しようとした際、牛が急に向きを変えて走ったため、ロープに指をとられた。軍手をしていたが、その際に軍手が外され、軍手の中に切断された小指が残っていた。	63	1~ 9
7	15~ 16	体重計測の為親子で馬を引いていたところ強風に仔馬が驚き走り出した為、親が急に暴れ頭部と胸部を後肢で蹴られる。	48	30 ~ 49
7	9~ 10	牧場内において、馬の写真撮影作業中、馬の曳き綱を持って馬の正面に立ち、馬の姿勢を整えていたところ、馬が急に暴れだしたため転倒し、右肩付近を地面に強打ち骨折した。	48	1~ 9
7	3~4	厩舎前において、騎乗の際に該馬が突然動き出したため落馬し、その際に右足を該馬に踏まれ、同部を負傷した。	49	10 ~ 29
7	7~8	出張厩舎馬房内において手入れ作業中、該馬が突然ぶつかった際に、該馬と壁との間に挟まれ、左脇腹および腰部を負傷した。	46	10 ~ 29
7	16~ 17	当社新農場準備のため、農場周りに生えている植木の枝落としや雑草の草刈りをした。作業終了時、首筋にダニのようなものに噛まれた跡が3か所見つかった。後日、発熱・倦怠感・吐き気・喉の痛みの症状が現れた。	71	1~ 9
9	8~9	哺育舎から育成舎への仔牛を移動させる為に仔牛7頭を6人で追っていたところ、牛に蹴られて転び、転んだところを牛に踏まれこの災害となった。	38	1~ 9
		酪農ヘルパー出役中、育成牛を移動している時、1人が前から引っ張っていたが、動かなかったので、自分は後ろ側から尿溝にあるパンクリーナーのチェーンに左足		

9	17～ 18	をかけ、牛を押していたら、足首をひねったような気がしたので、押すのをやめて足をついたら痛みがあって、歩くのも痛かったので、すぐ病院を受診し、肉離れと診断され帰宅した。翌日になっても痛みが治まらなかったため、整形外科病院を受診した。アキレス腱断裂と診断され、後日手術した。	56	1～ 9
9	14～ 15	放牧中、曳いていた馬が急に暴れ、押さえようとしたが右肩を脱臼した。	19	100～ 299
9	9～ 10	牧場にて右膝をついて踵を浮かせた状態で牛を削蹄中、牛が倒れてきたので逃げようと腰を浮かせた際に、右ふくらはぎから踵に牛が倒れ下敷きになった。	47	—
9	14～ 15	馴致中、ウォーキングマシン内で騎乗していた所、馬が突然立ち上がり、後方に転倒。ウォーキングマシン内の後壁に投げ出される形で落馬。その際に、右肩から背中にかけて激痛を感じた。	31	300～ 499
9	9～ 10	豚の交配作業中、雌が動いてしまい、雄が雌を追いかけ動いたとき、雄が足を滑らせ、その際に被災者が足を踏まれ、抜こうとして右膝に負荷がかかり負傷した。	27	1～ 9
9	13～ 14	出走馬に騎乗、発走後コーナー付近において同馬が馬体故障を起こして転倒し、落馬した際に同馬に一瞬乗られて負傷した。	21	1～ 9
9	6～7	委託先農家の牧場内で、牛を委託先から会社に運搬するため、トラックに牛を積み込もうとしていた際、牛が逃げそうになり、牛に繋いだロープが引っ張られ、コンパネに指をぶつけ負傷した。	52	10～ 29
9	15～ 16	自厩舎内、馬房内において糞拾い作業中、該馬が物音に暴れ尻を向けて蹴ってきたため、右足（右股関節部）を負傷した。	59	10～ 29
9	5～6	馬運動場において、乗運動に向かうため騎乗した際、該馬が嫌がり突然走りだして落馬し、左足を強打負傷した。	48	10～ 29
9	5～6	乗運動中、該馬が突然暴れて落馬し、腰部を強打負傷した。	44	10～

				29
9	5~6	調教前の乗り運動中に雨が降ってきたので、鞍に合羽を付けるために洗い場に馬を入れ、降りた時にホースが足に絡み転倒し、その音に馬が驚いて暴れ右足のふくらはぎを踏まれ負傷した。	55	1~ 9
10	6~7	馬が急に暴れ、左膝を蹴られた。その際、脱臼してしまった。	41	100 ~ 299
10	8~9	就業場所牧場の牛舎で搾乳を終えた牛の移動をしていた。牛舎内で牛の誘導をしていたところ、急に牛が団体で走り出したため、避けきれずに牛舎のH型鋼と牛との間に体が挟まれてしまい負傷した。	48	1~ 9
10	9~ 10	一歳馬の調教中、坂道の入口付近で被災者を乗せた馬を中央にして、3頭併せて調教していたところ、右側にいた馬が暴れて、その蹴り上げた脚が被災者の右膝に当たった。	41	10 ~ 29
10	6~7	敷地内にて、急に馬が立ち上がり落馬をして、腰から落ちたところに馬があおむけに乗っかかり、腰の骨を折った。	38	1~ 9
10	16~ 17	馬房内で当才馬の蹄の裏掘り作業をしていたところ、左後蹄の裏掘りを終えた時に後肢で左頬を蹴られ頬骨骨折。	58	30 ~ 49
10	10~ 11	当牧場にて競走馬を調教のため、騎乗にて反路を走行中に馬がバランスを崩し、落馬してしまった際に右足を打ち痛めてしまった。	38	
10	9~ 10	角馬場において、騎乗調教中、該馬が突然暴れ跳び背負い投げのように前方に投げ飛ばされ落馬、頸部を馬場にぶつけ負傷した。	36	10 ~ 29
10	6~7	騎乗調教中、該馬が突然心臓麻痺を起こし、急に止まり倒れた際、バランスを崩して落馬、左肩と左肋骨を負傷した。	37	10 ~ 29
		動場において曳き運動中（左側）、該馬が突然暴れ踏まれ、右足（全体特に小指付		10

10	3~4	け根を強く踏んだ)を負傷した。	59	~ 29
10	8~9	牛の出荷作業中、小屋の中にいた4頭のうちの1頭が動いているうちに当たってきて、柵と牛に挟まってしまい負傷した。	68	100 ~ 299
10	7~8	騎乗調教中、該馬が突然暴れ旋回した際にバランスを崩し腰部を捻り、同部を負傷した。	42	10 ~ 29
10	8~9	馬運動場において騎乗調整中、該馬が突然暴れて落馬し、右手の第5指を強打負傷した。	58	10 ~ 29
10	6~7	騎乗調教中、該馬が突然走りだして埒にぶつかった際に落馬し、左足を強打負傷した。	42	10 ~ 29
10	8~9	豚舎内通路で、母豚移動中に母豚がまとまっていて、動かなくなり、押して移動させようとしたところ、足を踏まれ負傷した。	28	1~ 9
11	15~ 16	牧場にて、繁殖馬を馬房に入れるため、馬を引いていたところ、急に立ち上がり、馬と一緒に右腕が上がり、激痛がはしった。	20	10 ~ 29
11	15~ 16	放牧地で繁殖牝馬のひき運動中、馬が暴れぶつかって来て、本人が倒れ右肩を負傷した。	65	30 ~ 49
11	7~8	競馬場内ロンギ場で、1才馬（メス、鹿毛）を馴致中、同馬が突然暴れたため右肩から落馬し、右肩を地面に打ちつけ負傷した。	34	1~ 9
11	14~ 15	会社敷地内の倉庫の屋根の修理のため、壁に立て掛けた梯子を上っていたところ、梯子が凍った地面に接地していたために、梯子が滑り、そのはずみで、はしごの2.5m位の高さから、地面に足から落ちた。	49	1~ 9

11	14～ 15	集牧して厩舎に入れる為に手綱を持って歩いていたところ、馬が暴れ自分の後ろ側に回って後ろ脚を蹴り上げた為、背中に後脚が当たり背中を負傷した。	31	10 ～ 29
11	6～7	朝の調教の為、装鞍所において馬（牡、2歳馬）の調教を始めようと馬場に入ろうとしたところ、同馬が暴れて馬場管理棟の柱にぶつかった際に左足を負傷した。	35	1～ 9
11	11～ 12	自厩舎付近、馬運動場において取扱馬の乗運動中、該馬が突然躓き前方へ投げ出され落馬し、背部から馬場に落ちた際に負傷した。	49	10 ～ 29
11	8～9	角馬場において騎乗調教中、該馬が突然斜行し尻っぱねをした際バランスを崩して落馬し、馬場に飛ばされた際背部と左手甲部分の骨を打ち、負傷（骨折）した。	57	10 ～ 29
11	5～6	馬運動場において取扱馬の調教に行く途中、該馬が突然引っくり返り落馬し、その際背部、左臀部打撲、左肋骨・右手親指を馬場に打ち負傷した。	33	10 ～ 29
11	9～ 10	工場仕上げ場で、被災者が一人で鉄骨加工品仕上げ作業を行っている最中に発生した。二段に重なっていた鉄骨加工品の上段の加工品を手前におろす際に、手で持ち上げたが重さに耐えきれず急いでおろした為、下段の加工品とおろした加工品の間に指を挟んでしまった。鉄骨加工品、H形鋼200×175×7/11t×990L（43kg）	35	1～ 9
11	11～ 12	ホテル調理場内にて、デシャップ台（完成した料理を配膳前に一時的に置く台）付近の段差に躓き転倒した。その際に最初にデシャップ台にぶつかり右顔面を打ちつけてしまった。前日に調理場内の床面清掃を行い台が通常時に比べ位置が違っており、そのために、感覚が変わって、躓いてしまったようである。翌日になっても痛みが引かなかったために受診した。その後、1週間後に受診し、翌月は通常勤務を続けたが、右手に痺れが出るなど、違和感を感じ、翌々月に受診し痛みが続いていることを伝えた。	34	1～ 9
11	10～ 11	出入り口付近において調教終了後の帰厩の際、該馬が付近を歩いていた厩務員に驚き突然立ち上がり、人馬転倒した際に左膝を該馬と付近の埒との間に挟まれて、同部を負傷した。	34	10 ～ 29

11	14~ 15	第15回競馬4日目第7レース発送後、厩舎に帰る坂道付近で、発送予定の馬とすれ違った際、興奮して立ち上がった時に転んで、ヘルメットを蹴られた時に負傷した。	50	1~ 9
12	15~16	牛舎内の扉（柵）を1人で閉めようとしたところ、牛が扉に突進してきて、扉に左手首を挟まれ受傷した。翌日以降だんだんと痛みと腫れがひどくなり、後日受診し、左橈骨遠位端骨折と診断された。	46	10 ~ 29
12	11~12	豚舎内にて豚を移動する作業をしているときに、豚の通路で豚と壁に足をぶつけた。	31	1~ 9
12	8~9	ビニールハウスにて給水しようとしてハウス内に入ったところ、牛の水飲場が壊れていてその水が凍り、氷になっていて、その上に乗った所で滑って転倒し、左腕を打ってしまった。	59	10 ~ 29
12	7~8	厩舎から衛生室へ道具を取りに向かう途中、地面の凍結に気づかず、滑って転倒した。	27	50 ~ 99
12	14~15	乾乳牛舎内の掃除をする為、牛を外に移動作業中、牛に正面からぶつかられた様で、その後、牛舎内の通路迄逃げて来たと思われ、そこで倒れている被災者を他の従業員が発見した。本人から、牛にやられたと聞き、その後、意識がなくなり、搬送先の病院で死亡が確認された。	61	10 ~ 29
12	14~15	牛舎にて、1人で牛の治療をしていて、ワクチン接種をした際、牛が驚いて体あたりするように倒れてきて、逃げきれず、左足が牛と地面の間に挟まれて左膝を負傷したものである。	29	1~ 9
12	9~10	敷地内洗い場と厩舎の間で、馴致のため、本人が調馬索を持ち、同僚が同馬を引いていたところ、突然同馬が暴れ、前へ駆け出し、左右に激しく動いた為、2人とも引っ張られ、左右に振られる状態になった。暴れる馬を抑えるため、紐を引いた際、腰に強い痛みが走った。	40	10 ~ 29
12	10~11	会社所有の農場にて、豚にエサを与える為、外に設置してあるエサタンクからエサを一輪車で運ぶ際に地面が雪で凍っていて、バランスを崩し滑って転倒した。着	42	1~ 9

		地の際に、左足首から地面に着いて負傷した。		
12	15~16	競走馬スイミングプールの馬プール出入口付近において、該馬の運動終了後、該馬が突然ぶつかってきた際、胸部、右脇腹を蹴られ負傷した。	43	10 ~ 29
12	7~8	逍遙馬道において、調教終了後の乗運動中、該馬が突然暴れた際に落馬し、左膝を強打し負傷した。	60	10 ~ 29
12	7~8	逍遙馬道において騎乗調教中、該馬が突然立ち上がったため落馬し、左腕を強打し負傷した。	39	10 ~ 29
12	21~22	牛舎内にて、乳牛に注射を打っているとき（ビタミン剤）、乳牛（乾乳中）の首を保定していたが、真後ろに立ってしまったため、牛に後ろ足で蹴られた。	31	1~ 9
12	11~12	当社牧場内において、競走馬の運搬のため常歩をさせていたところ、急に馬が跳ね、馬場に叩きつけられるように落馬し、負傷した。	25	10 ~ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html